「農学」の顕学が語る特別対談

東京農業大学 江口文陽 理事長・学長 × 南九州大学 吉本博明 副学長

江口「情報過多の時代だからこそ 現場で直接学ぶことが大切」

東京農業大学
江口 文陽 理事長・学長
えぐち・ふみお●昭和63年、東京農業大学農学部林学科（現・森林総合科学科）卒業。平成5年、同大大学院博士課程修了。平成24年より同大森林総合科学科教授、学科長を経て令和3年に学長および学校法人東京農業大学理事就任。令和5年7月から学校法人東京農業大学理事長。

「人物を畑に還す」を建学の精神に掲げ、6学部23学科を擁する農学系の総合大学として知られる東京農業大学（東京都世田谷区）の江口文陽理事長・学長と、環境国際芸学部を設置し、園芸や造園、自然環境などについて学ぶことができる南九州大学（宮崎市）の吉本博明副学長二人による特別対談が実現した。運命的な邂逅以来、30年以上にもおよぶ親交を深めてきたエピソードを交えて、自大学部の魅力、大学としての今後のビジョンなどについて熱く語っていただき、両大学を参画した、進路情報研究センター・ライセンスアカデミー（本社東京・新宿区）が10月19日に福岡ファッションビルで開催した高校生対象の進路探究イベント「サイエンスアカデミー福岡」の講演の様子も合わせてリポートする。

かねて親交のあった二人の研究者 現場を重視するマネジメント視点

―江口文陽理事長・学長と、以前は稲田大学で心理学を学ばれていたという吉本博明副学長はかねてお親交があるとうかがいました。

吉本 高校全条後、私は早稲田大学（東京都新宿区）第二文学部で心理学を学んでいましたが、大学業が迫ってきてダイミングで父から「きのこ」を栽培する事業を始めたいからサポートをしてくれないか」と相談を受けました。

江口 そうでしたね。吉本の早稲田大学と、江口理事長・学長が、大学業が迫ってきてダイミングで父から「きのこ」を栽培する事業を始めたいからサポートをしてくれないか」と相談を受けました。

吉本 高校全条後、私は早稲田大学（東京都新宿区）第二文学部で心理学を学んでいましたが、大学業が迫ってきてダイミングで父から「きのこ」を栽培する事業を始めたいからサポートをしてくれないか」と相談を受けました。

江口 一般的に大学の理事長や学長になると、大学全体の経営やスティアクロジーを学ぶ中で、自らの研究をさらに深めたり、学生のマネジメントに関与する時間さえ取れなくなるというのが、当ことも大切な仕事の一つです。現在、私自身はこの研究者であるにもかかわらず、「商品開発」という名目で、新商品を考案・開発するのですが、「商品開発」という名目で、新商品を考案・開発するのですが、「商品開発」という名目で、新商品を考案・開発するのですが